

2022年5月度の観察記録

カテゴリ : 2022年

_MD_POSTEDON投稿者: [Zz.admin](#) 掲載日: 2022-5-10

2022年5月度の観察記録です。

```
Untitled Page .auto-style1 { text-align: right; } var gaJsHost = (("https:"  
== document.location.protocol) ? "https://ssl." : "http://www.");  
document.write(unescape("%3Cscript src='" + gaJsHost + "google-analytics.com/ga.js'  
type='text/javascript'%3E%3C/script%3E")); var pageTracker =  
_gat._getTracker("UA-3205823-1"); pageTracker._initData(); pageTracker._trackPageview();
```

2022年??5月?8日(日) 9:30~12:30 作成: 田畑恭子 監修: 瀧川正子
写真協力: 伊藤義人氏

参加者: 大人?27名, 子ども?2名 天気: 晴れ ゴールデンウィーク最終日はさわやかな初夏の装いとなりましたが、意外にも平和公園には人が多く来ていない印象でした。自然観察会もいつもより子どもの参加者が少ない中、たくさんのイモムシケムシに出会いながら歩きました。最初にカイコの原種と言われるクワコを見に行きました。同じクワの木にサイズの異なる2頭の幼虫が見られました。確かにカイコの幼虫の姿によく似たシルエットをしていました。そのすぐそばでハンゲシヨウが紹介されました。ハンゲシヨウは一般的に葉に白い斑が入ることが知られていますが、これは昔から白くならないそうです。

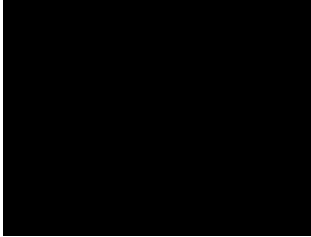




クワコの幼虫 ハンゲショウ **ザトウムシ**が何匹も歩いていました。この観察会では久しぶりの登場です。前から2番目の1対の脚を盲人の杖のように動かしながら歩く姿からその名がついたと説明がありました。ザトウムシが歩くその草むらにミツバが生えているのに気づいて葉を摘んでその匂いを確かめました。近くには葉の形がよく似たキツネノボタンも見られ、こちらには毒があるので誤って食べないようにと注意がありました。



ザトウムシ ミツバ 少し**歩**の**刑**を観察すると、実がつき始めていました。近年は実が熟す前に病気になってしまうことの多いクワの実ですが、今年はどうでしょうか。また**オオシマザクラ**もたくさんの実が色づき始めていました。このサクランボは熟せば食べることはできるが美味しくないとのことでした。



クワの実 オオシマザクラのサクランボ シホウチウクの手触りを確かめてみました。その名の示す通り、稈の部分は角ばって、ザラザラしていました。スイバは雌雄異株と紹介されましたが、この辺りでは雌株ばかりが目につきました。よく似たギシギシと見分けるには葉のつき方を見るのがわかりやすく、茎を抱くように葉がつくのがスイバとのことでした。





シホウチウク スイバの雌花 スイバの葉
ではヒメウラナミジャノメやヤブキリの幼虫、ハムシの仲間など、いろいろな昆虫が次々と現れて
参加者の足が止まりました。イタドリに巻きついて伸びるガガイモの葉ではチャバネツヤハムシが
交尾していました。これはガガイモの葉を食べるハムシだそうです。

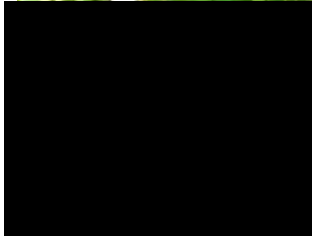
イタドリがあたり一面に群生していました。この辺り





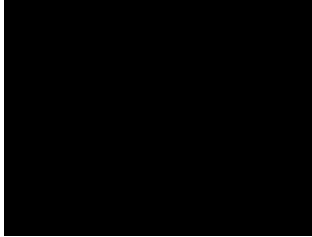
ヒメウラナミジャノメ ガガイモ チャバナツヤハムシ
咲かせていて、年々その数を増やしているようにも見えました。そのすぐそばではノイバラの花が満開で、こちらはいい香りがしました。

イ道沿の成ミは広い範囲で花を



イモカタバミ ノイバラ

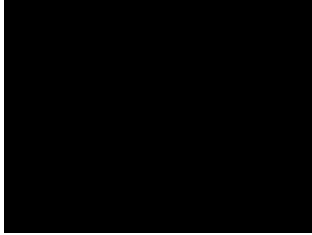
何かに葉を食べられたエノキを調べるとテ葉の裏にウの蛹がついていました。成虫で越冬するチョウなので、この春孵化した幼虫が成長して蛹になったと思われる。コナラの葉裏にはベニヘリテントウと思われる蛹も見つかりました。



テングチョウの蛹 ベニヘリテントウ?の蛹
るトビズムカデを見つけました。かなり大きな個体で上の方から降りてきました。マルバヤナギは
実がふくらんでいました。柳絮と呼ばれる白い綿毛を伴った種を飛ばし始めるのはもう少し先にな
るようでした。

ガマズミを観察していた参加者が、幹を這ってい





トビズムカデ マルバヤナギ ゾウムシに詳しい参加者が、マツの倒木の樹皮をめくって見つけたマツノシラホシゾウムシを紹介してくれました。幼虫と蛹が1個体ずつ見つかりました。また別の参加者が見つけたヤママユの幼虫はコナラの幼木についていました。まだまだ大きくなりそうで、その幼木についている葉だけでは餌が足りなくなるのではないかと思われました。





マツノシラホシゾウムシの蛹 ヤママユの幼虫 そのほかに、エノキについたミツボシキリガの幼虫、サルトリイバラについたルリタテハの幼虫、コナラについたオオトビモンシャチホコの幼虫など、チョウやガの幼虫が次々と見つかりました。



ミツボシキリガの幼虫? ルリタテハの幼虫 オオトビモンシャチホコの幼虫 この日はコムラサキを何度も見かけました。ヤナギ類を食草とする美しいチョウです。飛ぶのが速くカメラに収めるのが難しいのですが、観察会の最後にその姿の写真を撮ることができました。



コムラサキ

毎年この季節は子どもの参加者が多く、昆虫ばかり見ているのはそのせいかと思
っていましたが、今回のように子どもの参加が少なくても撮った写真は圧倒的に虫が優勢になって
いました。これから少しずつ雨の季節が近づき気温も上がる中での植物の変化にも注目していきたい
と思います。

平和公園での観察項目：ハチの仲間、クワ、クワコ、テントウムシの仲間の幼虫、イセノナミマイマ
イ、ハンゲショウ、ザトウムシ、ヒメジョオン、ミツバ、キツネノボタン、エノキの虫こぶ、クワの実、ツ
マグロオオヨコバイ、ワカバグモ、オオシマザクラのサクランボ、シホウチク、スイバ、イタドリ、オヤ
ブジラミ、ガガイモ、チャバネツヤハムシ、モモノゴマダラノメイガ、コガタルリハムシ、ヒメウラナミ
ジャノメ、クロウリハムシ、アメリカフウロ、ズミ、ニワゼキショウ、シロツメクサ、イボタノキ、イモカ
タバミ、ゴヨウアケビ、ゴミグモ、スズコナリヒラタケ、ノイバラ、ドクダミ、テングチョウの蛹、クロハ
ネシロヒゲナガ、ガマズミ、ハラビロカマキリの卵囊、トビズムカデ、ナナホシテントウ、マツノシラホ
シゾウムシの蛹と幼虫、ミヤマヨメナ、ヤナギの実、キショウブ、ヘビイチゴ、ヤナギルリハムシ、ハム
シの仲間、ナミテントウ、ヨトウガの幼虫、マユミ、ミノウスバの幼虫、ヤママユの幼虫、ベニヘリテン
トウ？の幼虫、コデマリ、アブラムシ、アリの仲間、ミツボシキリガの幼虫、ヨシ、ヤブキリの幼虫、クズ
、サルトリイバラ、ルリタテハの幼虫、クロコガネ、ケブカクチプトゾウムシ、オオトビモンシャチホコ
の幼虫、コムラサキ、ウグイスの声、ウシガエルの声、ハシボソガラスの声
？